故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

高岡初の町絵師／堀川敬周（1789頃～1858）

高岡は江戸後期、商工業、特に銅漆器、染物などが盛んになり、製品図案の需要も高まってきました。この頃に現れたのが、町絵師・堀川敬周です。町絵師は町民の求めに応じてあらゆる画題を描く画家です。

敬周は堀上町の染物屋湊屋平助の二男に生まれ、絵師・堀蠖翁の養子となって片原中嶋町に住みました。家業の染物図案を描いていましたが、京都に出て画壇の中心であった四条派の紀広成（山脇東暉）、東東洋に学びました。

堀川敬周筆《高岡町奉行肖像》
1840年（博物館蔵）

敬周は文化末期（20代後半）頃に帰郷し、高岡での先駆的な町絵師として活躍します。多くの天神図や恵比須大黒、市井の人々などの洒脱な風俗画や格調高い山水図や龍虎図のほか、蘭方医長崎浩斎の依頼による人体解剖図など幅広く描きました。また金沢の俳人・桜井梅室に師事して俳諧も嗜み、江戸の四詩家と称される大窪詩仏や瑞龍寺18世・閑雲ら漢詩人など多くの文人墨客らと親交をもちました。また、敬周は銅器漆器仏壇の図案彫刻の指導改善に尽力した高田蕙圃ら多数の弟子を育成したと伝わっています。代表作の一つである《高岡町奉行肖像》に描かれた顔の表情や衣装などの詳細な表現から敬周の卓越した技術を見ることができます。（仁ヶ竹主幹）

堀川敬周筆・桜井梅室句賛
《人物十二ヶ月屏風》（部分）
1833年（博物館蔵）

問合先　博物館 TEL 20－1572